

# 市民参加を進めるための審議会運営チェックリスト

(三郷市：平成27年3月31日)

## 1. チェックリストの目的

三郷市では、平成21年6月に制定した三郷市自治基本条例や、この条例に根拠をもつ総合計画に基づき、市民参加による市政運営に取り組んでいます。市政の意思決定に市民性や専門性の見地から大きな役割を果たす審議会においても、条例や計画に沿って着実に市民参加が進んできました。自治基本条例の制定前になりますが、平成21年3月には、三郷市審議会等の設置及び運営に関する規程も定められ運用されています。

このたび、このような蓄積をもとに、審議会における市民参加の更なる充実を図るためのチェックリストを作成しました。このチェックリストは、これまで審議会の運営に携わった職員が、審議会委員のみなさんからいただいた声を活かしながら、より充実した審議会運営となるよう全庁職員の参加のもと、チェックすべきポイントをまとめたものです。

今後、このチェックリストを審議会の運営に活用することで、市政運営に市民のみなさんの力（市民力・地域力）を活かしていただくことを目的としています。

## 2. 審議会における市民参加の必要性

審議会における市民参加は、政策や制度をつくる過程に市民が参加し、市民の意見を審議に反映することのできる大切な機会です。審議会は、地域の課題や、その解決の方策について検討するための会議であり、課題の現場に最も近い市民の参加は、審議会をより効果的なものとするために必要とされます。

## 3. 「市民参加が生かされない審議会」の事例とその理由

### 〈事例〉

広報紙で〇〇審議会の市民公募委員募集の記事を見つけた市民のAさん。選任の通知が市役所から届いたときはとても嬉しく、役割を果たしたいと胸をふくらませました。

一回目の審議会、他の委員を見ると、大学教授、会社社長や団体の会長などがずらり。会議が始まると、専門用語が飛び交い何を言っているのかわかりませんでした。結局、Aさんは冒頭の自己紹介の他は、一言も発言できずに会議が終わってしまいました。自分の役割は何なのか、どんな発言をすればよかったのだろう、次回から自分は必要なのではないかと考えAさんは帰宅しました。

### ・ Aさんの状況が生まれた理由として考えられること

1. 事務局と市民公募委員が互いに「役割」を理解していなかった
2. 専門性に偏り過ぎた内容になってしまった
3. 市民公募委員が話しやすい運営をしていなかった

## 4. 審議会のあり方

実際の審議会では、「発言のしにくさ」や「自分の存在理由」に悩んでいる市民公募委員がいます。事務局主導で、そもそも議論の余地のない審議会や「専門家」たちの難しい専門用語や業界用語が飛び交い、理解しづらい審議会があります。審議会とは誰のための会議なのか、しっかり認識して臨むことが求められています。

## 5. チェックリストの活用方法

審議会の設置時や1回目の審議会開催にあたり、各部で案件内容を踏まえながら活用してください。

●各段階のプロセスとチェックリスト

